



第1回市議会定例会が開会

新年度予算など51議案を審議

平成26年第1回市議会定例会が3月3日、開会されました。

この日、会期を3月19日までの17日間と決められた後、「名誉市民の称号を贈り、名誉市民章を授与することについて」を上程し、田口義嘉壽氏に「名誉市民」の称号を贈ることを決めました(詳細は右欄に掲載)。また、5人の方に「市功労章」を授与することを決めました(詳細は2面に掲載)。

次に、人事案件5件を先議。大垣地域公平委員会委員に西脇史雄氏(再任)、固定資産評価審査委員会委員に高橋淳子氏(新任)、上石津地域の3財産区(牧田、一之瀬、時)の管理委員に各7人を選任することに同意しました。

続いて、平成26年度一般会計予算など44議案を一括上程。小川市長が市政運営に対する所信

を述べたほか、新年度予算編成の基本方針や、各議案の提案理由を説明しました。

各議案は、付託を受けた担当委員会で審査された後、19日に行われる本会議で採決される予定です。上程された議案は、次のとおり。

▶平成26年度予算関係(21件)

一般会計、公共下水道事業会計、病院事業会計など

▶平成25年度補正予算関係(3件)

一般会計、公共下水道事業会計、水道事業会計

▶条例関係・その他(20件)

職員の給与に関する条例の一部改正、老人医療費助成金条例の一部改正、国民健康保健条例の一部改正、障害者福祉年金条例の一部改正など

田口義嘉壽氏 名誉市民に



市は、本市発展のために貢献され、市政に特別な功労をいただいた田口義嘉壽氏(セイノーホールディングス(株)会長)を「名誉市民」に決定しました。名誉市民は、13年ぶり10人目。

田口氏は、西濃運輸(株)の社長や会長をはじめ、全日本トラック協会副会長、大垣商工会議所会頭などを歴任。本市や物流業界はもとより、日本の経済・産業の発展に大きく貢献されました。

また、「決戦関ヶ原大垣博」(平成12年)、「日本まんなか共和国文化首都大垣」(平成14年)、「おおがき芭蕉生誕360年祭」(平成16年)の成功に寄与されるとともに、岐阜県体育協会会長、田口福寿会会長などとして、さまざまな分野にわたって長年、本市の振興に尽力されました。

3月3日には、小川市長と林市議会議長が西濃運輸本社を訪れ、田口氏に決定を報告しました。表彰式は、市制記念日の4月1日にスイトピアセンター文化ホールで行われます。

元気ハツラツ市 今年もスタート!!

「月イチ日曜は商店街が熱い!!」でおなじみの「元気ハツラツ市」が3月2日、今年初めて開かれました。

今回の目玉は、食の祭典「第3回OG-1グランプリ」。500人の来場者が、頂点を目指してエントリーした8つのグルメを試食し、お気に入りの一品に投票しました。集計の結果、協同組合Yuuusuiが出品した「OG-1湧水ギョーザ」が見事グランプリに輝きました。

また、ワゴンセールやステージイベント、コスプレパレード、軽スポーツ体験なども行われ、3か月ぶりに「元気ハツラツ市」が開かれた中心市街地商店街一帯は、再開を待ちわびていた多くの来場者で終日、にぎわいました。

なお、3月16日の日曜日には、今月2回目の「元気ハツラツ市」が「グルメフェスティバル」をテーマに開かれます。ご家族皆さんでお出かけください(4月~12月は毎月第1日曜日に開催予定)。



大垣の自噴水で育てた野菜などをハツシモの米粉をブレンドした皮で包んだ「OG-1湧水ギョーザ」

「月イチ日曜は商店街が熱い!!」でおなじみの「元気ハツラツ市」が3月2日、今年初めて開かれました。今回の目玉は、食の祭典「第3回OG-1グランプリ」。500人の来場者が、頂点を目指してエントリーした8つのグルメを試食し、お気に入りの一品に投票しました。集計の結果、協同組合Yuuusuiが出品した「OG-1湧水ギョーザ」が見事グランプリに輝きました。また、ワゴンセールやステージイベント、コスプレパレード、軽スポーツ体験なども行われ、3か月ぶりに「元気ハツラツ市」が開かれた中心市街地商店街一帯は、再開を待ちわびていた多くの来場者で終日、にぎわいました。なお、3月16日の日曜日には、今月2回目の「元気ハツラツ市」が「グルメフェスティバル」をテーマに開かれます。ご家族皆さんでお出かけください(4月~12月は毎月第1日曜日に開催予定)。

大垣市を中心とする2市9町で構成される「西美濃」地域は、南は濃尾平野の海抜0m地帯から、北は揖斐川の源流がある標高1200mを超える冠山まで、変化と起伏に富んだ自然豊かな地域です。また、中山道や東山道が通る交通の要衝であったため、古くから東西の経済・文化の交流点として栄えるとともに、壬申の乱や関ヶ原合戦など天下分け目の戦いの舞台にもなってきました。現在も、交通の要衝に変わりなく、JR東海道本線や東海道新幹線、名神高速道路、東海環状自動車道など交通の大動脈が走っています。この2市9町は、一部事務組合や同盟会を設立し、消防や環境、道路、治水などの課題に取り組んできました。そして今回、地域全体の総合的な発展に向け、「西美濃共和国」を創立し、私が議長に就任しました。今後は、さらに連携を深めながら、観光PRやイメージアップ、イベントなどを進めていく予定です。昨年、日本を訪れた外国人観光客が初めて1000万人を突破しました。市内の外国人宿泊客数も一昨年、約1万8000人になりましたが、「西美濃」を観光された方は限定的でした。そこで、「ピジット西美濃観光キャンペーン」として、11市町すべての首長が2月12日から14日まで台湾を訪問し、舟下りや紅葉、温泉などのトップセールスを果たしました。今後、地域のさらなる発展のために、さまざまな事業に取り組んでいきたいと思っています。



台湾で行われた「ピジット西美濃観光キャンペーン」

西美濃共和国の創立



市長の
おなまきん

大垣市長 小川 敏